

1 活動名

松江市中核市への移行について（松江市、島根県）

2 調査の目的

- (1) 本市における課題
中核市移行に向けた取り組みの問題点
- (2) 調査の必要性
移行した先進地において、効果等を聞く為
- (3) 調査項目
中核市への移行について

3 調査地選定理由

- (1) 松江市、島根県
人口減少に向かう松江市で、中核市としての人口要因20万人ぎりぎりの線で中核市移行を決断したことと、保健所の共同設置について調査するため。

4 調査結果

- (1) 実施日 平成30年8月7日
- (2) 出席者 6名 青木豊子、芝山稔、上條温、川久保文良
青木崇、井口司朗

(3) 成果・所感等

平成26年6月、中核市を目指す方針を打ち出し、移行へは最短でも3年要することを、確認。年度内に準備室を設置し、積極的に進める。また、1年後には保健所の設置方法について県との協議を始める。29年中核市関連予算案を議会で承認し、30年4月に中核市となる。松江市は、多くの病院や診療所があり医療資源が比較的豊富であったため、高齢化が進む社会において今後必要とされる保健、医療、福祉、介護等が連携した住みやすい環境を築く為の条件に恵まれていることから、地域の特性を活かし、住みよい暮らしに一層磨きをかけるために、市民に一番近い基礎自治体として、自らの責任と判断でまちづくりを担う中核市に移行することは大きな意義があると考えた。また、県境を越えた広域連携をする上で、唯一中核市移行の要件を満たす市が、松江市であるため、圏域60万人の維持と強い産業圏域の形成、交通ネットワークの充実と住みたくなる圏域づくり、住民サービスの向上を目指して主導的立場をとる。保健所の共同設置は、苦肉の策であると感じた。県と市の立場の違い等、様々な軋轢が生じていると考える。中核市移行に伴うデメリットはないと、職員の方は主張されており、そのことが少し心配かなと感じた。